

「2019～2022年度 市営交通 中期経営計画」(原案)について

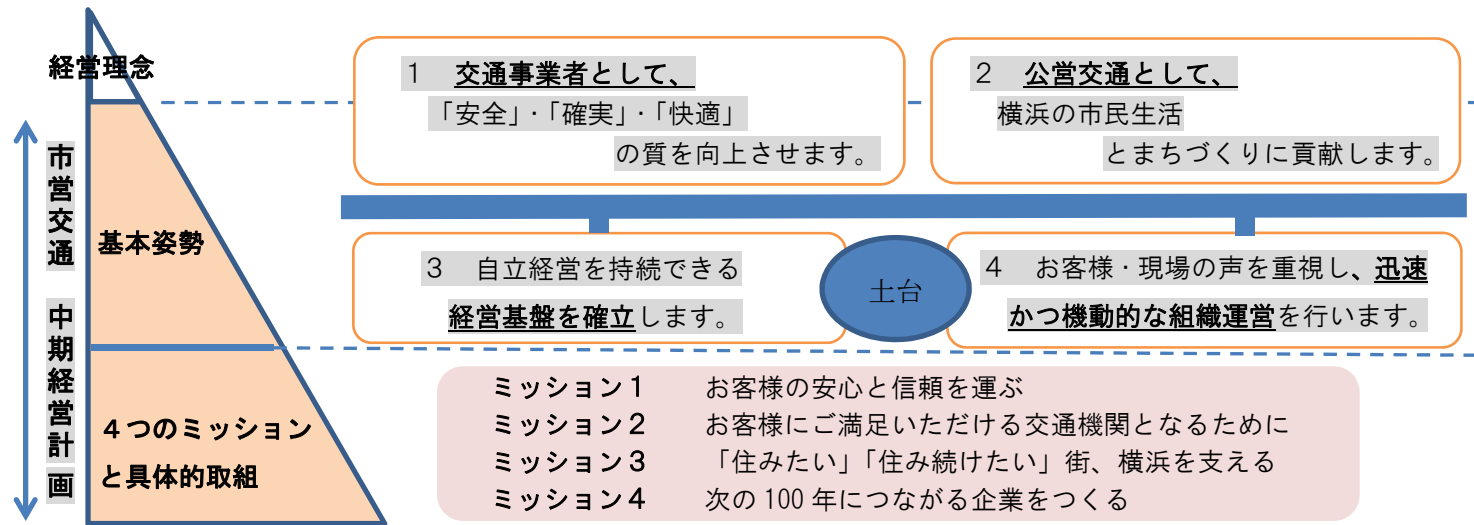
水道・交通委員会資料
令和元年5月28日
交通事務局

【要旨】 2019年度を始期とする「2019～2022年度 市営交通 中期経営計画」(原案)についてご報告します。

1 計画期間 **原案P11** 2019～2022年度 (4年間)

2 計画の体系 **原案P11**

交通局経営理念を計画期間において具現化するものとして「市営交通 中期経営計画」を位置づけ、「4つの基本姿勢」・「4つのミッション」を定めて、引き続き「安全な運行の提供」を最優先としながら、「安定的な輸送」「利便性の向上」の取組を強化するなど、「12のターゲット」に取り組んでまいります。



3 「2019～2022年度 市営交通 中期経営計画」(原案)に掲載している主な事業

○ミッション1 お客様の安心と信頼を運ぶ

【ターゲット1】 安全対策の強化	4事業	① 運輸安全マネジメント制度に基づく安全管理の強化 ② バス乗降環境の整備 (50か所) ③ 交通安全教室等の拡充 (年100回以上)	原案P15
【ターゲット2】 災害対策・テロ対策の強化	5事業	① 災害・テロ対策訓練の強化 ② サードレールの脱着防止対策 (ブルーライン高架部の対策完了。全長約6.4km) ③ 駅構内 ITV 装置拡充 (24駅の運用開始)	原案P16
【ターゲット3】 確実な輸送を支える取組	8事業	① バス・地下鉄車両の計画的な更新 (バス車両200両更新、地下鉄車両6編成導入) ② 地下鉄施設の計画的補修 (平沼町・大江橋・宮元町シールド、関内駅・大江橋換気塔等)	原案P17～18
【ターゲット4】 安全を支える職員を育てる	4事業	① 健康経営計画の策定・推進 (職員の健康管理を経営的視点から捉え戦略的に実践する。) ② 安全確保に向けた研修・教育の充実 ③ 安全を支える職員の働き方改善	原案P19

○ミッション2 お客様にご満足いただける交通機関となるために

【ターゲット1】 選んでいただくために、わかりやすく	5事業	① インターネットでの情報提供・検索システムの充実 (バス位置情報検索の利便性向上など) ② わかりやすいバス系統編成の検討	原案P21
【ターゲット2】 気持ちよくご利用いただくために、乗りやすく、使いやすく	16事業	① 利便性を高めるダイヤの改善 ② バス停上屋・ベンチの更新及び新設 ③ 駅の大規模改良工事 (関内駅、新横浜駅、上大岡駅完了) ④ 駅の美化 (コンコース、トイレ等)	原案P22～24

○ミッション3 「住みたい」「住み続けたい」街、横浜を支える

【ターゲット1】 街の賑わいの創出	10事業	① 高速鉄道3号線延伸事業の推進 ② グリーンライン混雑緩和策 (6両化) (令和6年度までに10編成を6両化) ③ 都心臨海部の新たなバスネットワークの構築 (令和元年度～段階的に拡充) ④ 相鉄・東急直通線との接続に伴う工事の推進 (新横浜駅)	原案P26～28
【ターゲット2】 環境先進都市への貢献	4事業	① 環境にやさしいバスの導入 (ハイブリッドバス、FC・EVバス令和元年度試験導入・運行) ② 地下鉄駅照明の省電力化 (LED化)	原案P29

○ミッション4 次の100年につながる企業をつくる

【ターゲット1】 安定的な経営基盤の確立	6事業	① 貸切バス事業の推進 ② 駅や高架下における店舗の開発と活性化の推進	原案P31
【ターゲット2】 市民に愛される市営交通を目指して	4事業	① 市営交通100周年に向けた取組 (記念事業の実施) ② 社会貢献の取組 (国際貢献事業、職場体験学習の受入等)	原案P32
【ターゲット3】 意欲と能力を活かす制度の充実	5事業	① 人事給与制度の改革 (処遇改善、キャリアルートの構築など) ② 新たな職員提案制度の構築	原案P33
【ターゲット4】 次世代を担う人材の確保と育成	3事業	① 優秀な人材の確保を行うための取組の強化 ② 人材育成の推進と総合研修センターの新設検討	原案P34

4 ミッションごとの指標・目標

ミッション1 お客様の安心と信頼を運ぶ 原案P14		現状値	目標値 (令和4年度末)
1	【バス】 重大事故につながる事故の撲滅 (歩行者、自転車との接触事故)	10.75件/年 (平成27～30年度の平均)	0件/年
2	【地下鉄】 30分以上の本線支障 (自然災害等の外部要因を除く)	3.75件/年 (平成27～30年度の平均)	3件以下/年
3	職員の安全意識向上の定着度 (職員アンケート「安全とお客サービスを最優先に仕事をしているか」という設問に対し「非常に当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた職員の割合)	80% (平成30年度)	88%

ミッション2 お客様にご満足いただける交通機関となるために 原案P20		現状値	目標値 (令和4年度末)
1	1日あたり乗車人員 (両事業合計)	99.1万人 (平成29年度)	103万人
2	お客様満足度の向上【バス】 (お客様利用状況調査「市営バスサービス全般について」(総合満足度)という項目に対して「満足」「やや満足」と答えた人の割合)	85% (平成30年度)	88%
3	お客様満足度の向上【地下鉄】 (お客様利用状況調査「市営地下鉄サービス全般について」(総合満足度)という項目に対して「満足」「やや満足」と答えた人の割合)	86% (平成30年度)	88%

ミッション3 「住みたい」「住み続けたい」街、横浜を支える 原案P25		現状値	目標値 (令和4年度末)
1	高速鉄道3号線延伸	事業化判断	事業の推進
2	グリーンラインの混雑緩和策 (10編成の6両化)	混雑率161% (平成30年度)	令和4年度 混雑率178% ※6両化3編成完了 (令和7年度 混雑率150%程度)
3	都心臨海部の新たなバスネットワークの構築	—	令和元年度 バス路線新設 令和2年度 連節バス導入・既存バス路線再編・新たなバスネットワークの構築

ミッション4 次の100年につながる企業をつくる 原案P30		現状値	目標値 (令和4年度末)
1	経常収支比率	100%以上	100%以上
2	企業債残高対乗車料収入比率	【バス】 3.9% (平成29年度) (他都市平均21.9%) 【地下鉄】 811.5% (平成29年度) (他都市平均660.6%)	【バス】 21.9%以下 【地下鉄】 727%以下
3	職員の「やりがい」意識の向上 (職員アンケート「やる気を持って生き生きと仕事をしているか」という設問に対し「非常に当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた職員の割合)	50% (平成30年度)	60%

5 計画期間中の収支見通し **原案P36**

計画期間（4年間）の収支見通しは以下の通りです。

※総務省が公営企業に策定を求めている「経営戦略」として位置づけることから、原案には10年間の収支見通しを掲載しています。

(1) バス事業

人口減少・超高齢社会の進展により一般路線の乗車料収入の増加が見込めない中、観光需要の取り込みや貸切バス事業の積極的な展開などにより乗車料収入を維持するとともに、コスト管理を徹底し、収支均衡を目指していきます。

(単位：億円)

		令和元年度 (予算)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
収 益	経常収入	226	215	215	214
	うち乗車料収入	(※) 213	200	200	200
	経常支出	224	215	215	213
	うち人件費（退職給付費を含む）	140	140	141	138
	経常利益	2	0	0	1
	累積利益	6	6	6	7
資 本	資本的収入	15	14	15	18
	資本的支出	34	28	34	41
	うち建設改良費	30	24	27	32
	企業債残高	16	26	34	41

※令和元年度は予算額（税込）を計上。乗車料収入の税抜額は200億円

【バス事業の建設改良費（4か年累計113億円）の主な事業】

ミッション1：お客様の安心と信頼を運ぶ【62億円】

- バス車両の計画的な更新（49.6億円）
- バス営業所の改修（6.8億円）
- IP無線機の導入（1.6億円）

ミッション2：お客様にご満足いただける交通機関となるために【27億円】

- バス車載運賃箱の更新（6.3億円）
- バス総合案内盤・接近表示機の更新（5.8億円）
- バス停上屋・ベンチの更新及び新設（1.4億円）

ミッション3：「住みたい」「住み続けたい」街、横浜を支える【16億円】

- 環境にやさしいバスの導入（13.3億円）
- 都心臨海部の新たなバスネットワークの構築（2.2億円）

ミッション4：次の100年につながる企業をつくる【8億円】

- 貸切バス事業の推進（車両更新）（1.5億円）
- ICTを活用した業務改善（0.5億円）

(2) 地下鉄事業

南部方面を中心に沿線人口の減少の影響が見込まれるものの、グリーンラインの乗車人員の伸びなどもあり、全体としては同程度の乗車料収入を見込んでいます。一方、地下鉄設備の老朽化対策や車両の更新は先送りできない状況になっています。また、混雑対策が課題となっているグリーンラインの6両化、高速鉄道3号線の延伸に向けた準備を着実に進めていきます。

なお、設備投資による減価償却費の増はあるものの安定的な経常利益を見込んでいます。

(単位：億円)

		令和元年度 (予算)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
収 益	経常収入	541	488	487	482
	うち乗車料収入	(※) 437	407	407	407
	経常支出	462	424	430	431
	うち人件費（退職給付費を含む）	84	84	84	84
	経常利益	79	64	57	51
	累積利益（▲：欠損金）	▲1,462	▲1,398	▲1,341	▲1,290
資 本	資本的収入	308	288	253	277
	資本的支出	518	515	473	499
	うち建設改良費	197	230	215	230
	企業債残高	3,416	3,341	3,272	3,212

※令和元年度は予算額（税込）を計上。乗車料収入の税抜額は402億円

【地下鉄事業の建設改良費（4か年累計872億円）の主な事業】

ミッション1：お客様の安心と信頼を運ぶ【547億円】

- 地下鉄施設の計画的補修（シールドトンネル補修、塩害対策区間構築補修）（82億円）
- 地下鉄車両の計画的な更新（73億円）
- 地下鉄の安全運行を支える機器等の更新（65億円）

ミッション2：お客様にご満足いただける交通機関となるために【198億円】

- 駅の大規模改良工事（94億円）
- わかりやすい車内・車外表示（地下鉄車両）（9億円）
- 快適な車内空調の実現（地下鉄車両冷房装置の改修）（3億円）

ミッション3：「住みたい」「住み続けたい」街、横浜を支える【115億円】

- グリーンライン混雑緩和策（6両編成化）（74億円）
- 相鉄・東急直通線との接続に伴う工事の推進（28億円）
- 地下鉄駅照明の省電力化（LED化）（2億円）

ミッション4：次の100年につながる企業をつくる【12億円】

- 働き方改革（全ての職員が働きやすい職場環境の実現）（6億円）
- 技術の伝承（研修設備の充実）（1億円）

6 市民意見募集の結果について

(1) 実施概要

ア 実施期間

3月22日～4月15日までの25日間

イ 設問の内容

- ・「市営交通 中期経営計画(素案)」に記載している12のターゲットのうち、特に重視するもの(一人3つまで)
- ・自由意見

ウ 周知方法

交通局ホームページ、地下鉄LED広告・グリーンビジョン、停留所接近表示機、SNS(フェイスブック、ツイッター)

エ 受付方法

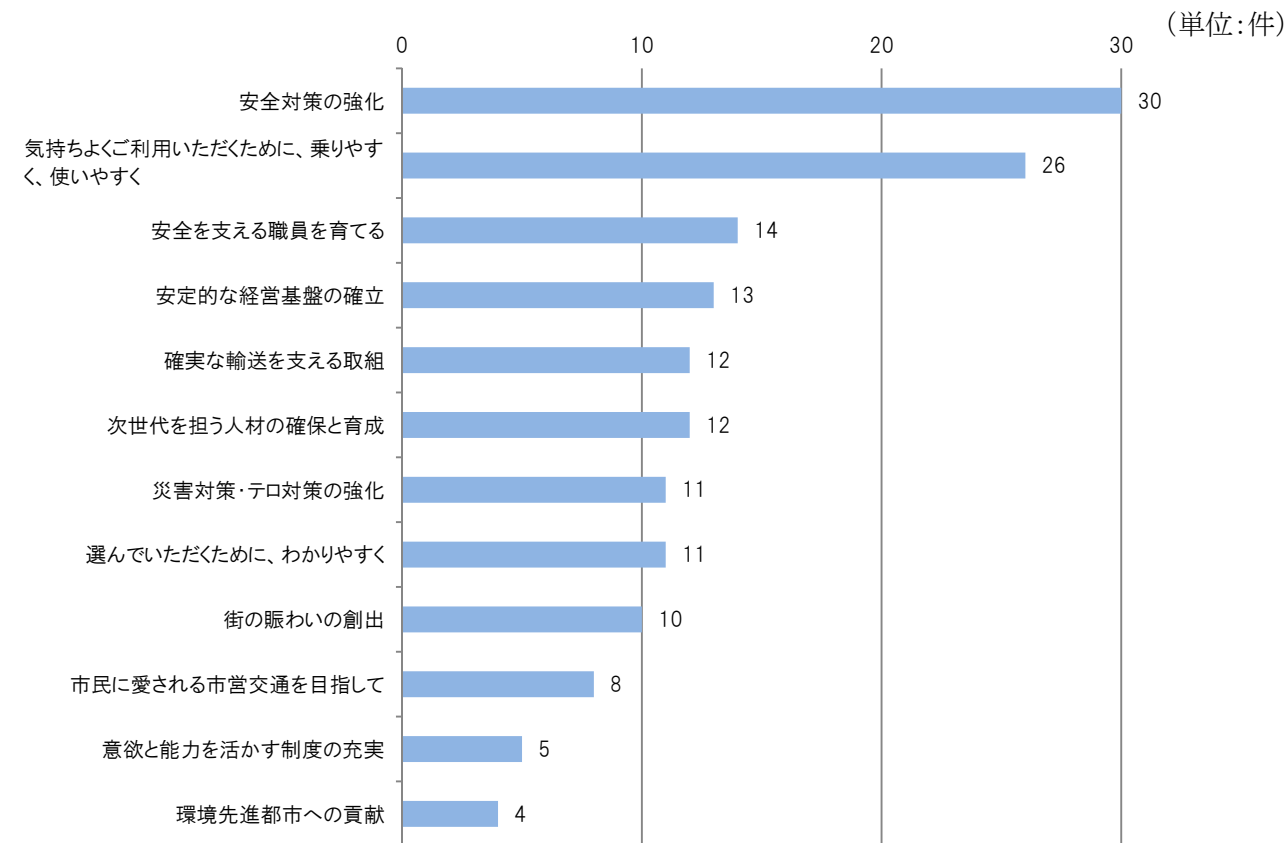
交通局ホームページから電子申請で受付(無記名)

(2) 回答結果

ア 回答者数

61名(自由意見数:延べ103件)

イ 「市営交通 中期経営計画(素案)」に記載している12のターゲットのうち、特に重視するもの(一人3つまで)



ウ 自由意見

○主な自由意見

バス事業に関するもの【42件】

- ・路線、ダイヤに関する要望(終バスの延長や電車との接続、路線の新設、運行本数など)
- ・車両に関する要望(フルフラットバス車両の導入、座席数の拡充、連節バスの導入、デザインの刷新など)
- ・施設・設備に関する要望(停留所標柱の形状の見直し、営業所への多機能トイレの設置、救急セットの設置など)
- ・短区間利用料金(100円)の導入
- ・給与水準の改善等による乗務員の確保

など

地下鉄事業に関するもの【31件】

- ・利便性を高めるためのダイヤの改善
- ・施設・設備に関する要望(トイレの美化、エスカレーターの設定、老朽化した点字ブロックの交換など)
- ・快速運転の運転時間拡大などによる速達性向上
- ・グリーンラインの全編成を6両編成化
- ・地下鉄の延伸に関する事(あざみ野～新百合ヶ丘の早期実現、駅の設置場所に関するご意見など)

など

市営交通事業全般に関するもの【30件】

- ・交通ネットワークを維持するためには税金の投入も検討すべきである
- ・公的機関なのに民間のような取組をしているところに共感する
- ・民営化すべき
- ・クレジットカードに関する要望(使える種類を増やしてもらいたい、ポイントによる景品の充実など)
- ・防犯対策を強化してもらいたい

など

(3) いただいたご意見への対応について

いただいたご意見については、全件に対して回答を作成し、ホームページ上で公表する予定です。また、「市営交通 中期経営計画」を構成する個別事業・取組の参考とさせていただきます。